

涙の恩恵 Gratia  
lacrimarum

KOIZUMI Tomomi  
小泉友美





# 目次

|   |   |
|---|---|
| 涙の恩恵 ライムンドゥ・ルルス Raimundus Lullus 愛する人と愛される人<br>の本より . . . . . | 1 |
|---|---|



## 涙の恩恵 ライムンドゥ・ルルス Raimundus Lullus 愛する 人と愛される人の本より

涙の恩恵、この創作は祈りの日誌として、いかに負の情念を涙を流す事でどう向き合う事が出来るのか、悦楽の果て、苦悩、怒り、恐れ、臆病、激情、欺瞞、悪の記憶、嫉妬等の心の内に渦巻く全ての現象との格闘から、少しずつ、魂の本性である輝く美しさをどう取り戻してゆくのか、キリスト教思想家のテキストからインスピレーションを受けたものです。

ライムンドゥ・ルルス Raimundus Lullus (1232-1315) は旧マヨルカ王国のマヨルカ島 Reino de Mallorca マヨルカ島出身の 13 世紀のキリスト教神学者・詩人です。キリスト教神秘形而上学の詩作で有名なディオニュシオス・アレオパギデスより影響を受けました。アラビア語とアラビア文学にも造形が深く、神の愛、信仰の愛についての著作を数多く残しました。

この作品はライムンドゥ・ルルスの愛する人と愛される人の本 (1726-1278 年頃出版) 内の第 1 章と第 3 章より個人的なインスピレーションを受けてまとめたものです。原文の語彙を使用しました。

この著作において、絶えず泣く行為が重要視されて、泣く事は、神を愛する行為とみなされています。ライムンドゥ・ルルスは、泣く事を以下の語彙で表現されています。例えば、涙の花飾り、涙のインク、泣いている私の身体、目に浮かぶ涙の言葉です。涙の賜物 Gratia lacrimarum は、霊的な涙の効力を指す概念であり、キリスト教神秘主義において、涙は悔恨や謙遜、改心の象徴です。

聖書において泣く行為は、旧約聖書の詩篇 6, 7-8 において、“苦悩に私の目は衰えてゆき、私を苦しめる者のゆえに老いてしまいましたとあり、苦しみゆえに目の力が弱まってゆく”とあります。

旧約聖書の詩篇 84,6-7 においては涙の谷と表現されています。“あなたの助けを待ち望む者は幸いである。この涙の谷で、主が定めた所へ上って行こうと心に決心した者は幸いである。”

新約聖書内のルカの福音書 19 章,41 において、イエスは愛する都エルサレム滅亡の日を思って泣きました。

また、ヨハネの福音書 11 章 35 節において、ベタニア出身のマリアとマルタ姉妹の兄であるラザロが墓に葬られている事を知って悲しみ、キリストは涙を流されました。ヨハネの福音書 20 章 11 節の聖女マグダラのマリアは、キリストの墓の外に佇んで泣きまし

た。著者不明のヘブライ人への手紙 5 章・ 7 節は書簡形式の文章であり、キリストの悲嘆が表現されています。" キリストは、肉において生きておられた時、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、ご自分を死から救う力のある方に、祈りと願いを捧げ、その畏れ敬う態度の故に聞き入れられました。"

涙の恩恵 Gratia lacrimarum 愛の道を求めて 愛とは何か？  
愛する人と愛される人の本よりインスピレーションを受けて

愛の道に至るには、なんと難しい事でしょうか。

Aimé 愛に出逢うには、果てしなく危険で、嘆きと涙に溢れた道を歩んで、ようやく、愛に満ち溢れた道を見つけられます。

愛に満たされなければ、あなたの目から涙が止まる事はありません。

Aimé 愛の瞳の奥の記憶を見いだすには、涙を流す事で、ようやく心の奥底に愛の炎が燃えあがります。

Aimé 愛とのいざこざがあって、いつになったら平和が訪れるのであろうかと、泣いていました。ため息と涙にむせぶるまま、私達はお互いに目を見つめ合います。ようやく、お互いに睦む事が出来ます。

Aimé 愛は涙の泉の傍らに座り込んで、泉の水を飲み、嘆き合います。Aimé 愛は再び泉の水を口にして、愛を誓います。鳥達は Aimé 愛の畑においてさえずり、私は、Aimé 愛に語ります。もしも話す言葉が理解出来なければ、愛によってお互いにわかり合いたいです。何故なら、あなたの歌は目で語りかけて来ます。Aimé 愛は記憶を無くしてしまわない様に、微睡む事の無い様に、ただひたすらに涙を流すのみ。

愛する事は、苦しみがあって、辛抱強くあって、畏れを持って、信頼をよせる事。私はいつも泣いています。歌をうたいながら。なんと愛は軽く、雷の閃光は辺り一面に。

海の水紋よりも、きらきらと輝いている涙。愛の扉の鍵は、欲望、ため息、そして涙によって黄金色に彩どられています。Aimé 愛と私の間の炎を燃やすには、畏れ、嘆き、そして涙です。この愛の道は余りにも長く、そして愛は輝いて、あまりにも純粋で、本物で、強く、新しい考えに溢れてゆきます。そして、旧き回想が溢れ出てゆきます。

愛の果実とは何ですか？

それは、悦楽、観想、欲望、嘆き、苦しみです。

あなたは何処で生まれたのですか？

私の内において。

あなたは何によって生きているのですか？

愛によって。

あなたは何処に行くのですか？

さらなる愛へと。

Aimé 愛は私にこう告げます。

愛の恩恵、ため息、苦しみ。

涙に溢れかえる両眼をぬぐって、私と Aimé 愛する人は出逢って、抱擁するままに、涙

に濡れます。

Aimé 愛する人の為に涙を流して、嘆く事無く、生きるままに、何も感じる事無く、何も見る事無く、何も聞く事無く、息する事ありません。

ああ!

涙が目から溢れ出ます。ああ、心よ、ああ、記憶よ。

Aimé 愛する人は慰められて、涙にむせぶるままに、愛の羽によって、この情念の紙に、涙のインクで綴ってください。涙の花飾りで飾ります。

愛は愛から出てゆくままに、物憂げな涙、愛より出ずる愛、嘆きの中の涙。

私は病気となり、目に浮かぶ涙になんと多くの罪を思い出してゆくのでしょうか。地獄の恐ろしさに震え泣きます。愛の涙は畏れによる涙よりもなんと心地良いのでしょうか。

愛の医者に逢い、慰められました。愛の医者は、私をその美しく整った愛の部屋に寝かしつけました。

葉、花、果実が実った樹には、あまたの鳥のさえずり、たおやかに匂う香りが辺り一面に漂っている。

愛の医者は、謙虚さ、辛抱強さを持って、愛の痛みを和らげさせてくれます。このとてつもない苦しみを超えて、ただひたすらに愛するのみです。

そして、私の愛の巡礼は、ようやく穏やかに歩を休める事が出来ました。

2026年3月22日 フランス・アンジェ 平和 祈

---

涙の恩恵 Gratia lacrimarum

---

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---